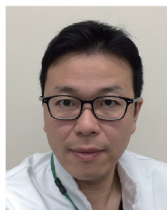




内山 侑紀 兵庫医科大学ささやま医療センター 地域総合医療学 リハビリテーション科



私は2007年に京都府立医科大学を卒業し、2009年に兵庫医科大学リハビリテーション医学教室に入局致しました。現在は兵庫医科大学ささやま医療センターに勤務し、主に地域医療における急性期・回復期・在宅期までステージの隔てないリハ診療に力を入れています。研究面では、ニューロリハビリテーションを中心としたCI療法、ボツリヌス療法、ロボットリハなどの新たな治療法に取り組んでいます。

学会活動としては、最近では国内学会だけでなく、国際学会にも積極的に参加しておりますが、国際学会に参加するたびに日本のリハは世界に誇るべき素晴らしいものという実感が増しております。ご存知の通り2019年は日本で初の国際リハ医学会が私たちの地元神戸で開催され、さらに国内学会も同時開催されるという大イベントが待ち受けています。近畿地方会の皆さまともこれまで以上に結束を固め、日本のリハを近畿から世界に発信していくきっかけになればと期待しております。まだまだ若輩者ではございますが、リハ医療発展のため少しでも貢献できるよう精一杯尽くして参りますので、近畿地方会の皆さまには今後ともご指導ご鞭撻の程賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第4回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会開催報告 西宮協立リハビリテーション病院 勝谷 将史

平成 28 年 12 月 3 日兵庫医科大学 9-1 講堂にて第 4 回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会を開催いたしました。昨年までは新専門医を中心とした交流会でしたが今年度からは新専門医だけでなく、今後リハ専門医を目指す若手リハ医の方々にも声をかけ新たに新専門医・若手リハ医交流会として、近畿地区のリハ医の交流を深める事を目的としました。

本年度は近畿地方会所属の先生より25名の新専門医が誕生いたしました。しかしながらリハビリテーション科専門医の数は充足しているとは言えません。さらに地域的な偏りや専門医を目指す若手の中には1人で奮闘されている方も多いようです。先輩医師からのサポートはあっても、大学や病院の枠を越えた横の繋がりも新専門医や若手リハ医のサポートになるのではないかと考えます。

今年度の参加者は 25 名、またお忙しい中、兵庫医科大学の道免教授、大阪大学の菅本教授、神戸大学の酒井教授、専門医会幹事長の大串先生にも御参加頂きました。会の冒頭、道免教授からご挨拶頂き慶應大学時代の関東若手リハ医の会のお話をお聞きました。菅本先生からは来年の秋期学術大会のお話も含めてご挨拶いただきました。新専門医・若手リハ医の方々からは自己紹介を兼ねて 4 名の先生が登壇、プレゼンしていただきました。兵庫医科大学の山下泰治先生からは「バランス練習アシストを用いたリハビリテーション」と題しパーキンソン病に対するロボットリハの効果なども交えてお話いただきました。公立甲賀病院の平田知大先生からは「滋賀県におけるリハビリテーション医の課題」と題して滋賀県におけるリハ医の現状を地理的な視点と人口動態も絡めて鼓舞奮闘している現状を、京都府立医科大学の小田良先生からは「京都府立医科大学付属病院リウマチセンターの取り組み」と題しピアニストの患者さんの治療も交えて紹介していただきました。西



記念ポートアイランドリハビリテーション病院の小林慶通先生からは「神戸大学リハビリテーション科の紹介」と題し炭酸ガス経皮吸収を利用したリハビリテーションなど神戸大学リハビリテーション科の特徴をお話していただきました。

続いて参加された先生方には一人ずつ自己紹介を兼ねたプレゼンテーションをしていただきました。近畿大学の洞佳代子先生からのプレゼンテーションでは医工連携や総合大学ならではの近大マグロや近大マンゴー・近大みかんなどの話で盛り上がり、京都府立医科大学の寺内竜先生からは整形外科ならではの症例を動画を交えてプレゼンを、その他関西リハビリテーション病院、西宮協立リハビリテーション病院、姫路赤十字病院、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターからも若手の先生が参加され経歴の紹介やリハ医を目指した理由、今後の抱負などを楽しくプレゼンしていただきました。懇親会では神戸大学の酒井教授からお挨拶いただき、食事をしながら交流を深めました。来年度も若手リハ医を交え大学や病院の枠を越えた交流を深めることで後進育成の一助となればと思います。